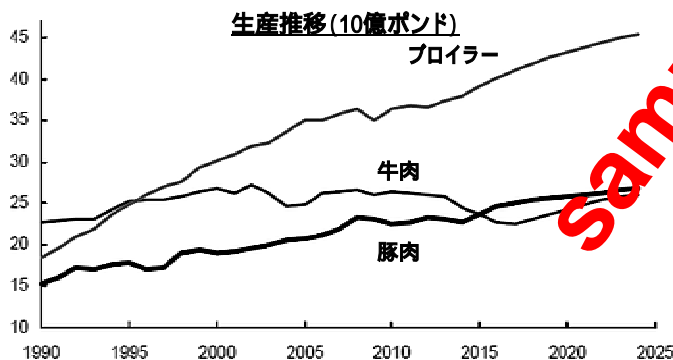


ERS最新長期予測:今後10年間、米のレッド・ミートと家禽生産は増加

牛肉長期予測(1千トン)										
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
生産	10,734	10,282	10,222	10,426	10,682	10,974	11,271	11,497	11,674	11,770
輸出	1,145	1,154	1,207	1,270	1,331	1,393	1,452	1,497	1,538	1,576
輸入	1,225	1,179	1,179	1,236	1,259	1,281	1,304	1,327	1,349	1,372

豚肉長期予測(1千トン)										
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
生産	10,714	11,188	11,364	11,522	11,649	11,758	11,852	11,942	12,045	12,160
輸出	2,381	2,438	2,495	2,540	2,574	2,608	2,642	2,676	2,710	2,744
輸入	408	408	414	420	426	432	438	444	450	455



レッド・ミートと家禽の生産は2024年まで拡大

農務省の経済調査局（ERS）が2024年までの長期予測を発表した。これによると、米の畜産業界は廉価な飼料コストを背景に、利益が上がり、生産を拡大させていく意欲が高まるとされている。豚肉業界は豚流行性下痢（PED）からの影響が低減し、2014年は生産が増加した。豚肉とプロイラー生産も2025年まで拡大が継続する見通し。牛肉生産は若齢雌がと畜されるより、肉用カウの飼育頭数を拡大するために留保されると見られており、2017年までは減少。しかし、2018年からは増加し始めると見込まれている。

牛肉

ここ数年よりも飼料価格が下落しており、生産者利益が拡大、牧草の状態も改善していることで、生産者の牛肉生産意欲が高まった。しかし、子取り用に若齢雌が留保され、2017年までは牛肉生産が減少しそうだ。

2015年、肉用カウの飼育頭数は約2千900万頭まで増加、2024年には3千300万頭を上回ると予測されている。総飼育頭数も8千800万頭から、2024年には約9千400万頭まで増加しそうだ。と畜重量の増加も牛肉生産増の要因とされている。

2018年までの数年、牛肉生産が増加、肉用生体の価格は下落する見通しだが、その後は生産が減少し、価格も上向く見込み。

豚肉

ここ数年に比べ飼料コストが下がり、PEDから回復していることで、生産者は分婍雌の飼育頭数を増加させ、1頭当たりの生産子豚頭数

が増加しそうだ。と畜重量が増加すると見られており、豚肉生産は2024年まで増加する見通し。

プロイラー

プロイラーとターキーの生産がともに増加、2024年まで家禽の生産も伸びる見通し。生産増予測の要因は、と殺羽数増と平均と畜重量の増加。

消費

2007年以降、食肉生産減と輸出増で、消費者価格が上昇、一人当たりの消費も減少してきた。2004年から2007年まで年間平均レッド・ミートと家禽消費は100^{*}余だったが、2014年は91.6^{*}となっている。しかし、その後生産増が予測されており、2024年のレッド・ミートと家禽の一人当たりの消費は97.5^{*}まで回復しそうだ。

輸出

食肉生産増で、豚生体とプロイラー価格は下落し続けるが、2024年に向かっては、生産が減少し、価格も再び上向く見通し。世界経済の拡大とドル安、世界と国内での需要高で、レッド・ミートと家禽輸出は拡大すると見られている。輸出される米産牛肉の大半は、メキシコ、カナダ、環太平洋地域向けの高品質のグリーンフェッド。

豚肉の輸出も増加し続けると見られている。生産の効率化で、国際市場における価格競争力を高めている。輸出が増加すると見られているのは、環太平洋地域とメキシコ。

1年間の禁輸後、対口輸出も再開するはずだが、ロシアは投資を続け、国内の豚肉業界を拡大させる施策を行い、輸入依存を排除しようとしているため、米とブラジルの対口輸出は影響を受けそうだ。

プロイラーの輸出も増加し続ける見通し。主な輸出先は中国とメキシコだが、その他の国への輸出も拡大している。牛肉や豚肉と比べコストが安く、国際的なプロイラー需要も強いまま推移している。しかし、米の家禽生産者は他の輸出国（特にブラジル）との競合を強いられ続けている。